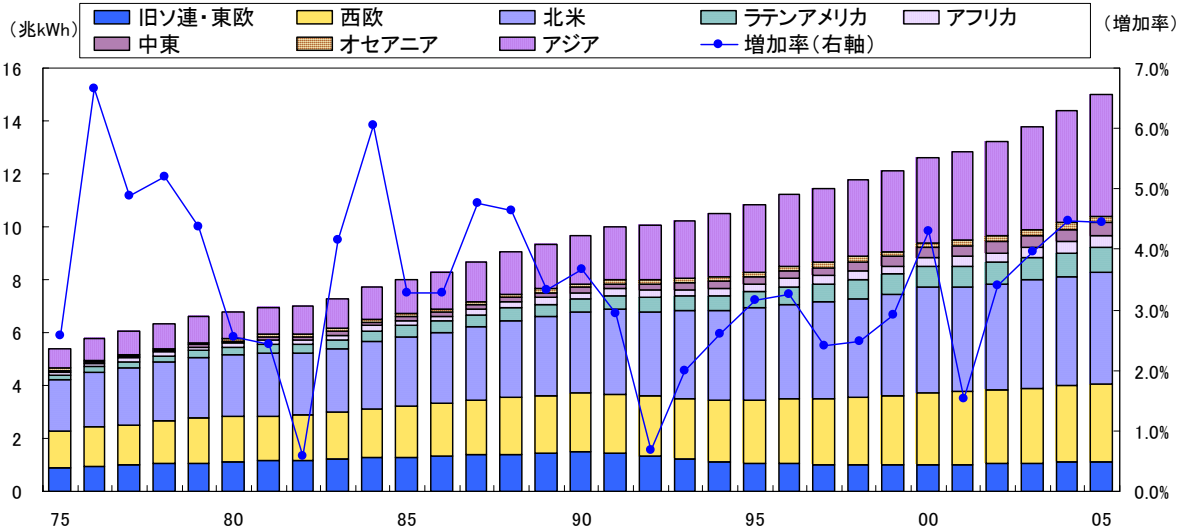


資料コーナー

国際エネルギー動向

出典：資源エネルギー庁ホームページ，エネルギー白書 2008 年版

(<http://www.enecho.meti.go.jp/topics/hakusho/2008energyhtml/index.html>) より抜粋



資料：IEA“Energy Balances of OECD Countries”, “Energy Statistics and Balances of non-OECD Countries”

図1 世界の電力消費量の推移（地域別）

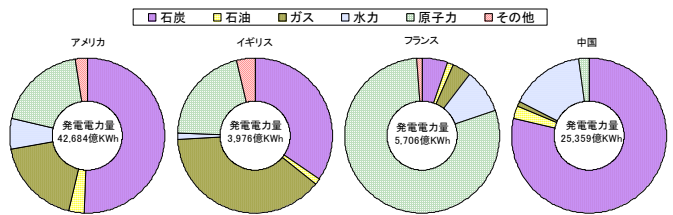
(1) 需要の動向

世界の電力消費量は一貫して増加しています。年代別に見ると、1970年代は石油ショック直後の一時的な消費の低迷がありました。これを地域別に見ると、先進諸国の多い北米・西欧地域は世界全体の伸びを下回っています。また旧ソ連・東欧地域は、ソ連崩壊後の経済の低迷も影響し、1990年代は消費量が低下しています。一方、1975年から2005年までの世界の電力消費量を増加させる大きな原因となったのは、途上国を多く抱えているアジア、中東、中南米などの地域です。特にアジア地域は、1994年以降、電力消費量で西欧地域を上回るようになりました（図1）。

しかし、その一方でアジア、アフリカ、中東、中南米は、北米・西欧地域に比べ、一人当たりの電力消費量は、まだまだ低い水準です。例えばアジアの一人当たり電力消費量は、北米地域のその約1/10にとどまっています。

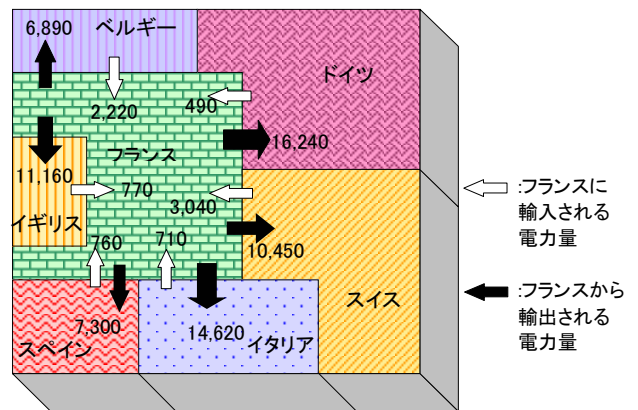
(2) 供給の動向

世界の発電電力量は2005年時点で18.2兆kWhです。各国の電源別発電電力量を見ると、アメリカは石炭が半分を占め、原子力とガスがそれぞれ19%と18%を占めています。イギリスはもともと国内に石炭が豊富であり、石炭火力が主力電源の役割を担っていましたが、北海ガス田の開発や電力自由化に伴って、天然ガス発電の比率が2005年には39%となっています。フランスでは原子力の比率が79%と非常に高くなっています。中国は経済発展とともに発電電力量も非常に高く伸びていますが、石炭の比重が79%と高く、環境問題が課題となっています（図2）。なお、欧州では国境を越えて送電線網が整備されており、電力の輸出入が活発に行われています（図3）。



資料：IEA“Energy Balances of OECD Countries”, “Energy Balances of non-OECD Countries”

図2 主要国の電源別発電電力量（2005年）



(単位: 100 万 kWh)

資料：IEA“Electricity Information 2007”

図3 フランスが輸出入した電力量（2005年）

堂元 貴史 (株) 東芝

(平成 20 年 12 月 24 日 受付)